

アスパラガス半促成長期どり栽培に関する研究

雌株と雄株の特性

池内隆夫・小早川弘文

アスパラガスの半促成長期どり栽培において,単交配した品種「ウエルカム」の雌株と雄株の違いが,生育,収量及び収穫茎の品質に及ぼす影響について検討した。

1. 定植年の茎長と茎数には,雄株と雌株で差は認められなかった。また,雌株は茎径で優っていた。
2. 貯蔵根の糖度は,雌株が 27.3%,雄株が 25.7%であり,雌株が高かった。
3. 1 年生株の春芽は,雌株と雄株で,平均一茎重や茎数は,差がなかった。また,2 年生株では,雄株が茎数で優り,雌株は平均一茎重や秀品率で優った。よって,収量性においては,1 年生株は明らかな差はなかったものの,2 年生株は雌株が優った。
従って,春芽において,雌株と雄株で差が認められるのは,2 年生株であった。また,雌株が平均一茎重で優り,雄株が茎数で優るのは,雌株と雄株固有の特性によるものと考えられた。
4. 1 年生株の夏秋芽は,雄株が茎数で優り,雌株が平均一茎重で優った。よって,収量性は雌株が優る傾向であった。なお,最多数の収穫茎は,雌雄株に関わらず,成茎と同程度の茎径であった。
従って,夏秋芽における平均一茎重や茎数の差は,春芽と同様に,雌株と雄株の特性によるものと考えられた。
5. 春芽の収穫開始日は,株年生に関わらず,雄株が 1 日早かった。また,夏秋芽の収穫終了日は,雄株が 5 日遅く,収穫期が長かった。
6. 収穫茎の緑着色,アントシアニンの発現および頭部のしまりの評価は,株年生や収穫時期に関わらず,雌雄株間で差はなかった。

キーワード:アスパラガス,雌株,雄株,半促成長期どり栽培